

## 2 2020年度 奨励賞受賞論文

### A 特別支援学校中学部 2年の音楽の授業実践

33期 生徒指導実践開発コース 井上 万紀(兵庫県)

#### 1. はじめに

A 特別支援学校中学部 2年では、二学期に、教師全員で音楽の授業で題材、教材・手立ての工夫、を教員間で話し合い、授業を通して生徒の変容を見ていくことになった。それぞれの生徒が音楽を通して変化できる姿を仮定し、実際にどんな変化が見られたのか「聴く」「見る」「触れる」「動く」「感じる」「考える」の6項目でめあてを作り到達点を模索し、結果をグラフにすることで共有できる材料を作った。さらに、昨年度の研究で発生した教師間の考えの食い違いも視野に入れて、お互いに話し合う内容が分かり合えるものにも合わせて考えながら、生徒が成長していく過程を検証した。

#### 2. 先行研究

音楽活動がどのような効果があるのかを見ていく時、筆者はこれまで特別支援学校の実践を通して、児童生徒が表現した行動を、「Co - Musictherapyにおける多感覚領域の視点とそのレベル」(中島 2002)による児童活動の比較を用いて分析し、音楽や動きのある活動ではどの感覚も向上することを分析することができた。(井上 2015)好きな活動によって偏りがあるものの、音・動き・言葉の揃った音楽活動で効果があることも実証できた。(井上 2015)さらに、他の教師と一緒に複数の目で児童生徒の行動を分析し、論議を重ねた結果、児童生徒の行動の裏には、見えない内面の世界がある事が確認された。

#### 3. 研究の目的

音楽の教師と音楽以外の専門性を持つ教師とは、感性の違いからなかなか理解し合えることが難しい場合がある。特別支援学校において教師間の連携は不可欠で、児童生徒を見ていく共通のツールがあれば少して

も話し合える材料として使え、児童生徒への理解が深まることに繋がる。児童生徒の成長をお互いに見合え、話し合えることで教師の力も伸びるだろう。授業の題材も、手立てや工夫もそれぞれの教師から出た意見や提案を基にして教員全員で連携して作り上げた授業に一步でも近づけることができないか、今回はその過程を見ながら教師たちが考えた仮説を検証していく。

#### 4. 研究の方法

##### (1) 調査対象者

兵庫県内の特別支援学校 A 中学部 2年生集団において週二回の音楽の授業で、生徒対象に行ったトーンチャイムの合奏活動を映像で撮り分析、手立てと工夫を話し合い、事後に映像で変容を分析、校内で中学部全員の教員で発表を実施した。

##### (2) 手続き

各クラスから軽度・重度の障害を持つ生徒を一人ずつ抽出、映像で授業の中での姿を見て、手立てと工夫を教師間で話し合い実施、公開授業での映像の姿と比較分析した。

##### (3) 調査期間 2019年10月～2019年11月。

##### (4) 調査項目

毎回トーンチャイムで「ハッピーバースデー」を合奏し、手立てと工夫を吟味して教材を作り替え、計5回の授業で見せた生徒の姿を読み取った。各クラス2名ずつ計8名の生徒に、「聴く」「見る」「触れる」「動く」「感じる」「考える」の6項目でめあてを作り到達点を模索し、結果をグラフに表し、分析した。この8名についてプロセスを見ていく。

##### 1) 生徒の実態を話し合う。(表 I)

##### 2) 授業のめあてを作成

参考資料として、「Co-Musictherapyにおける多感覚領域の視点とそのレベル」(資料①)を用意し教師間で

共有したいと考えたが難しかった。そこで、どんな目安を用意すればよいか論議すると、授業のめあてを挙げるが必要だという意見が上がった。そこで、それぞれのクラスから重度、軽度の生徒を抽出し、その生徒に沿っためあてを選んで、手立てを考え、変容を見ることになった。(資料②)

### 3) 教材作り

二学期末の学校の創立周年記念の催しに舞台発表することが決まっており、学校の誕生日と捉えて「ハッピーバースデー」の曲に取り組むことになった。誰もが知っている歌であるが、トーンチャイムで演奏するためには、メロディを歌で、伴奏を「ドミソ」「ドファラ」「ソシレファ」の三つの和音チームに分かれて演奏するならできるのではと、教師たちで考えた。五線紙を使いたいいわゆる楽譜を読むことは難しい。見てわかる楽譜を作ることは、従来の考えを捨てて、視覚的なものに訴える楽譜が必要であった。和音を色別に配して、表のような形で作るようになった。また、トーンチャイムにも色分けをして、楽譜と整合させるように考えた。実際には、楽譜を見たり、主指導の教師が前で指揮をして、手やジェスチャーで合図を送る様子を見ることのできない生徒もおり、その場合、生徒の間近で、教師が声掛けしながら指導する必要もあった。また、楽譜も目の前に見やすい同じデザインの楽譜を用意する必要のある生徒もいた。楽譜に気持ちを向けられない生徒、横で一緒に楽器を振ることで理解できる生徒もおり、それぞれの実態に合わせて楽器を振って鳴らすことで合奏に参加できる生徒もいた。(資料③)

4) 教師間で、生徒の社会性に繋がる「なっほしい姿」をまず出しあった。

A: 主指導の合図を見て、タイミング良く鳴らしたり、鳴らすことをやめたりすることができる。腕の曲げ伸ばしを正確に行うことで、美しい音色が出せることを知る。⇒自信がない課題を「できた」ことを自信につなげて欲しい。

B 教師の声かけや合図に合わせて楽器を鳴らすことができる。⇒ルールや決まりの中で活動できることを増やして欲しい。

C: 主指導の合図に合わせて、トーンチャイムを鳴らすことができる。自分のパート以外は鳴らさずに、待つことができる。教師の全体指示に注目して、行動することができる。⇒自分の役割が分かり、自分の役割が回ってくるまで待つことができる。

D: 楽器や音などに興味・関心を持ってほしい。⇒活動に取り組む時間と、活動に取り組まない時間(休憩など)を理解し、落ち着いて授業に参加できる力を身につけたい。

E: 主指導の合図を見て、タイミング良く鳴らすことができる。正しい持ち方で、トーンチャイムを鳴らすことができる。⇒正しい道具の使い方を知り、一人で使用する力・目と手の協調動作。

F: 正しく、腕を振りトーンチャイムを鳴らすことができる。教師の声掛けに合わせてトーンチャイムを鳴らすことができる。⇒正しく道具を使用する力・落ち着いて教師の指示を聞くことができる力。

G: 楽譜を見て、正しく演奏することができる。正しい姿勢で楽器を演奏したり、歌を歌うことができる。⇒課題に取り組む時や、教師の話聞く時など、正しい姿勢で参加できる。

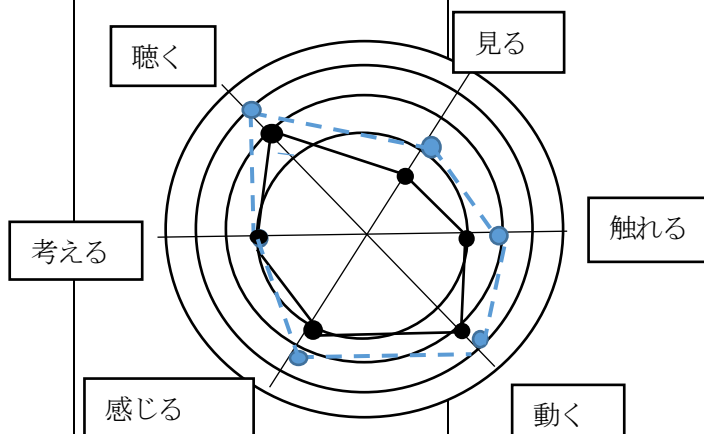
H: 良い姿勢を保ち、トーンチャイムを鳴らすことができる。正しく楽器を持って、音を鳴らすことができる。トーンチャイムを体に当てて、音を止めることができる。⇒良い姿勢を保ち、活動に取り組むことができる。正しい道具の使い方を知り、一人で使うことができる。

5 回の授業の中で、生徒が音楽の授業で変化していた姿を、資料②を参考に実態・授業での姿・手立て、結果の項目で表1に表した。

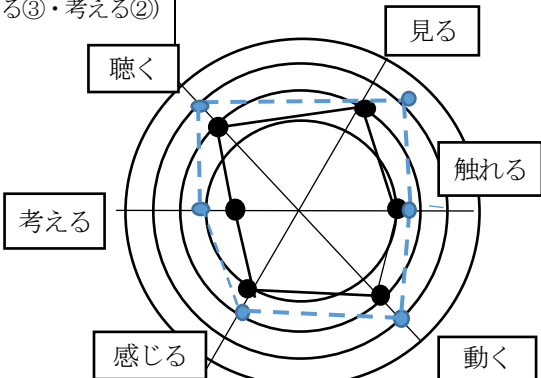
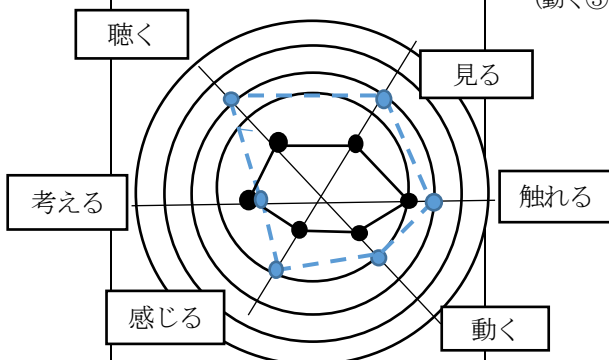
表1 生徒が音楽の授業で変化した姿

授業前の実態 ——— 授業後の結果 - - -

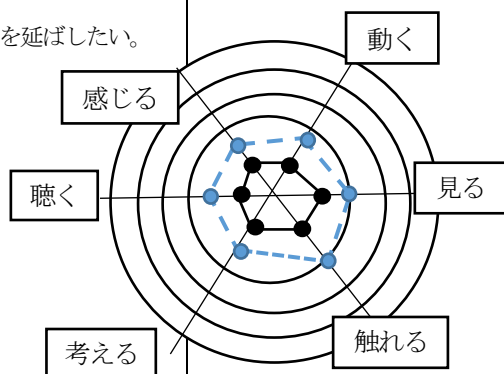
実態	授業での実態	手立て ①物理的環境・②支援ツール・③人的支援	結果
<p>A:知的障害、広汎性発達障害(自閉症)</p> <p>中1時は、聴覚過敏で、合唱や鑑賞時は耳塞ぎをしている事が多かった。中2時は、耳塞ぎをすることがなくなり、「ドレミの歌」など、馴染みのある歌は大きな声で歌うことができる。楽器演奏は苦手意識があるのか、顔の表情に笑顔がなくなり、曲を聴きながらタイミングよく鳴らすのは難しく、目の前の教師の合図を受けて鳴らすことができる。</p>	<p>・一人で鳴らすことはできるが、手首を振って鳴らしている。腕を真っ直ぐに伸ばすのが難しい。(動く④・見る③・触れる③)</p> <p>・正しい鳴らし方を指導すると、腕を伸ばしたり、曲げたりするのを意識しながら鳴らしている。(感じる③)</p> <p>・主指導者を見るように声かけをすると、見ようと努力している。(聴く④・考える③)</p>	<p>①主指導が見やすい位置に座らせる。</p> <p>②鳴らす場所を示した楽譜を用意し、どこで鳴らしたら良いか見通しを持たせる。</p> <p>③主指導者に注意が向かない時はサブTが声かけを行い、意識させる</p> <p>③授業の始めに教師の見守りを受けて、正しい鳴らし方を練習して、慣れさせる</p> <p>③腕の曲げ伸ばしを意識して動かそうとしている時は、賞賛したり、腕を持って補助したり、感覚をつかませる。</p>	<p>○合奏前に合唱をすると、楽譜を意識でき、歌詞のどの部分でトーンチャイムを鳴らすのか理解でき、時々ぼんやりして遅れることはあったが、タイミングよく鳴らすことができた時もあった。(⑤・④・⑥)</p> <p>○合奏前に腕を前に伸ばして鳴らす練習をすると、腕を伸ばすことを意識することができ、腕を伸ばすと音が大きくなることを本人も実感し、教師が賞賛するとやる気になり、腕を意識して伸ばすことができた。④</p> <p>○主指導者の合図や楽譜の赤い印を見ながら鳴らすよう声をかけておくと、意識して見るようになり、サブTの支援なしに一人で鳴らすことができた。(⑤・③)</p>



<p><b>B:</b>精神発達遅滞、重症                  新生児仮死に伴う呼吸器、脳幹型脳性麻痺。                  気管切開・胃ろう                  (PEG) (SM 検査:SQ                  25/SA3歳4ヶ月)                  楽器を鳴らすことができ、曲やみんなの歌声に合わせて一緒に歌おうとしている。どの活動にも意欲的に取り組む姿が見られるが、気持ちが高ぶるとタイミングとずれている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーンチャイムを持ち、音の鳴る方を見ることができる。                      (聴く②・見る②・触れる③・感じる②)</li> <li>・欲求のままに過ごしている。                      (動く②・考える①)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①主指導や楽譜の見やすい位置に座席を配置する。</li> <li>②自分の鳴らす部分が示された楽譜を用意する。</li> <li>③STの教師の声かけをし、一緒に楽譜を読んだり、鳴らすタイミングを示したりする。</li> <li>④鳴らす回数を教師と確認する。</li> </ol>	<p>○(自分のパートの)主指導の合図を見て、トーンチャイムを鳴らすことができた。また、STの教師の声かけや支援がなくても、主指導を見て演奏できるようになってきた。(聴く④・見る③・触れる④・感じる③)</p> <p>○音を1回だけ鳴らす練習を重ね、合奏のときも、合図に合わせて1回ならすことができた。                  (動く③・考える②)</p>
<p><b>C:</b>知的障害で (SM 検査 SQ28・SA3歳4ヶ月)                  右耳の鼓膜がない。                  歌を歌ったり、ダンスしたりすることが好きで音楽の授業でも意欲的である。新しい活動に対しても抵抗なく取り組むことができる。やりたい気持ちがあると順番を待たずに行動してしまうことがある。                  周りの様子が気になると全体指示を聞き逃すことがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーンチャイムの色とコップの色が同じことに気づくことができる。(見る④)</li> <li>・トーンチャイムが楽器であることが分かり、振って鳴らす事ができる。(触れる③・動く④)</li> <li>・近くにいる教師が主指導の教員を見るようにその都度声かけをすると、合図を見て鳴らすことができる。                      (聴く④・感じる③・考える②)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①トーンチャイムの色と色分けされた楽譜を見るように声かけをする。</li> <li>②近くの教師が正しいトーンチャイムの鳴らし方の見本を示す。</li> <li>③主指導を見やすい位置に座席を置く。</li> <li>④近くの教師が主指導の合図を見るように声かけをする。</li> </ol>	<p>○楽譜に記された色とトーンチャイムの色が同じであることを手がかりに、主指導の合図と楽譜を確認しながら演奏に取り組むことができるようになった。(⑤)</p> <p>○トーンチャイムを鳴らす練習の場面で、近くの教師が見本を見せたり、できた時に褒めたりすることで自信を持って正しく鳴らせるようになった。(③・⑤)</p> <p>○座席を2列にすることで、主指導を見やすい位置に座ることができた。視覚支援を手がかりにし、正しく演奏できた時に近くの教師が褒めることで楽譜に合わせて演奏することを楽しめるようになってきた。(⑤・④・③)</p>



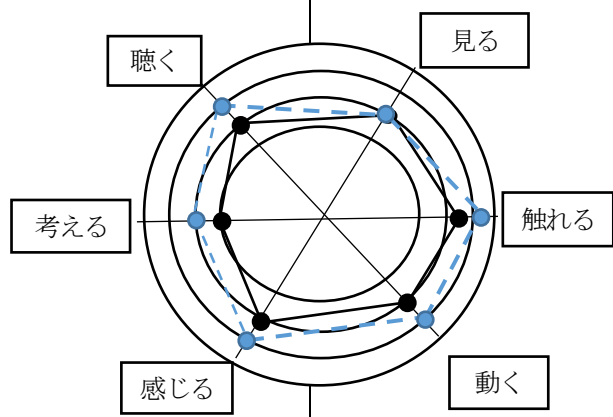
<p>D:てんかん、(SM 検査: SQ14・SA0 歳9ヶ月) 発作が起きると全身硬直する。 学習(その他の教科): 支援を受けながら学習活動に参加することができる。 学習(手指の動き): 水筒を持ったり、着替えのかごを持ったりすることができる。また大切にしているカードや玩具を手に取り、握りしめている。 課題: 興味・関心を持てるものを増やしたい。活動に取り組める時間を延ばしたい。</p>	<p>・トーンチャイムを見ない(見る①・聴く①)  ・トーンチャイムに関心を示さない(触れる①・見る①)  ・トーンチャイムを持っても動かない(動く①) ・音に関心を持たない(感じる①)</p>	<p>①注視できるよう、対面し、②適度な距離を保つ。 ③トーンチャイムの持ち手が握れるように差し出す。 ③トーンチャイムを渡す際に、見て持てるよう、対面に座る。 ①②合奏の際は、トーンチャイムを持つよう促す。合奏していないときは好きなカードを渡し、一定時間トーンチャイムに触れる機会を設ける。 ③トーンチャイムを渡す際に、見て持てるよう、対面に座る。 ①落ち着いて取り組めるよう、適度な距離を保つ。 ②③教師が腕に手を添え、一緒に振る動きをする。 ①注視できるよう、対面し、適度な距離を保つ。 ①③トーンチャイムを持つ前に、教師が本人の前でトーンチャイムを数回鳴らすようにする。</p>	<p>○対面し、教師がタイミングを見てトーンチャイムを鳴らして渡すことで、トーンチャイムを見て持つことができるようになった。(③・②)  ○好きなカードを持つ時間と、トーンチャイムを持つ時間とに分けたことで一定時間トーンチャイムに触れることができた。(②・②)  ○自らトーンチャイムを振ることはできなかったが、教師が軽く手を添えることでトーンチャイムを握り、教師と一緒に振ることができた。(③)  ○本人の目の前でトーンチャイムを数回鳴らすことで、音を感じ取り、少しの時間トーンチャイムを意識して見ることができた。(②)</p>
<p>E:SM 検査:SQ43・SA5 歳6ヶ月 知的障害、自閉症スペクトラムで、熱性けいれん(最後小学1年生)を起こしたことがある。好きな歌や、馴染みのある歌は大きな声でみんなと一緒に歌うことができるが、馴染みのない曲はリズムが分からず歌わない。教師が前もって</p>	<p>・合図を見て鳴らそうと主指導を見ているが、タイミング良く鳴らすのはまだ難しい。(聴く②・見る③・感じる③)  ・トーンチャイムの使い方を知っているが、振りかざして鳴らしてしまう。(触れる③・動く②・考える②)</p>	<p>①主指導が見やすい位置に座らせる。 ②鳴らす場所を示した楽譜を用意し、どこで鳴らすか分かりやすくする。 ③楽譜を指差しする。鳴らすタイミングで前もって声を掛ける。 ①見本となる友達を周りに配置する。 ②動画を撮り、自分の鳴らし方を客観視させる。 ④初めは教師と一緒にトーンチャ</p>	<p>○教師が隣に座り、鳴らす場所を色で示した楽譜を本人の手元で見せながら行った。指差しや合図をしながら鳴らす場所を確認すると鳴らすタイミングが分かり、的確な場所で鳴らすことが増えた。(④・④・③)  ○始まる前に、持ち方や鳴らす時のポイントの確認を行った。鳴らす時に、肘が伸び切らないこともあったが、繰り返し行うことで、意識して鳴らすことがで</p>

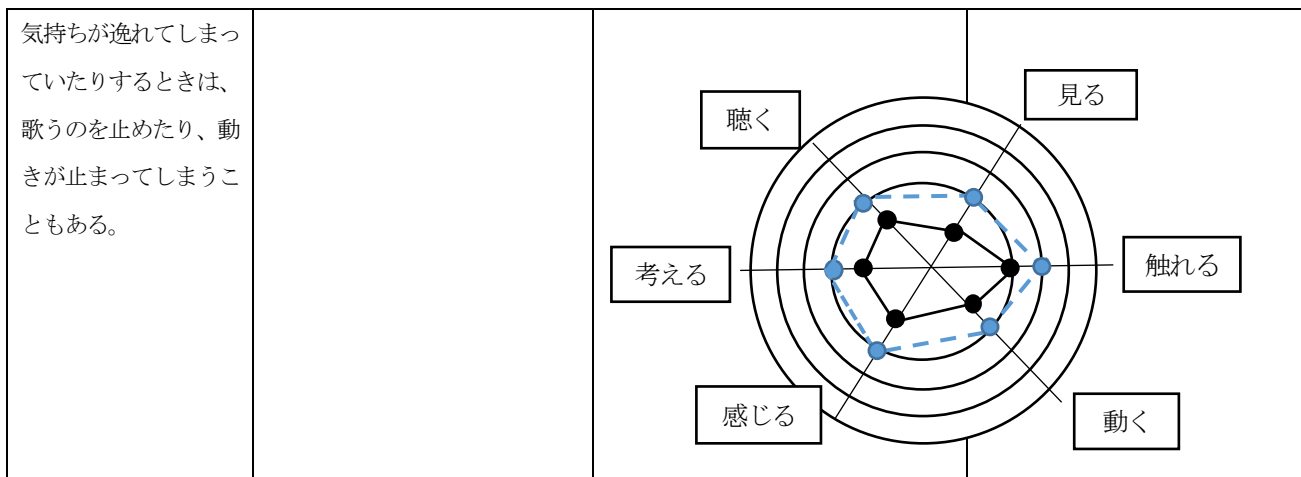




<p>歌詞を言うと、歌うこともある。 楽器を鳴らす時には、主指導の合図を見て鳴らそうとすることができるが、自分のタイミングで鳴らしてしまう。</p>		<p>イムを持ち、正しい鳴らし方を覚えさせる。</p>	<p>きてきている④・④・③)</p>
<p>F:知的障害、身辺自立はまだまだ援助が必要、段上りはでき、下りは一段一步。(SM 検査:SQ19/SA1 歳 11 ヶ月) 太鼓やトーンチャイム、鈴等の楽器では、一人で叩いたり、鳴らしたりすることはできるが、リズム等は関係なく、自分の思うままに叩いたり、鳴らしたりする。一度渡すとなかなか終わることが難しい。 「トイレに行く」「おかわりください」「音楽を聞かせてください」と幾つかの要求は言葉で伝えることができる。教師の指示はある程度理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トーンチャイムの使い方を知り、腕を動かすことができるが、気持ちが上がると振り回してしまう。(見る③・感じる②・考える②)</li> <li>・要求のままに振って鳴らそうとする。(聴く②・触れる③・動く②)</li> </ul>	<p>①小さく腕を振ることができないので周りに当たらないよう、隣の椅子との間を広くする。 ②本人の手に合うトーンチャイムを幾つか試し、一番振りやすいトーンチャイムを使用する。 ③はじめは教師と一緒にトーンチャイムを持ち、鳴らし方を覚えさせる。</p> <p>①落ち着いた環境で過ごせるよう、静かな席に座らせる。 ②本人の手に合うトーンチャイムを幾つか試し、一番振りやすいトーンチャイムを使用する。 ③隣に座り、鳴らすタイミングで声を掛ける。はじめは一緒にトーンチャイムを持ち、鳴らすタイミングを覚えさせる。</p>	<p>○本人に合うトーンチャイムを探し、大中小の大きさのトーンチャイムを試した。やや重ための大きいトーンチャイムであれば、振り回すこともなく、演奏に参加することができた。はじめは教師と一緒に鳴らしていたが、繰り返すことにより、一人でも振り回さずにトーンチャイムを鳴らせるようになってきている。(③・③・③) ○隣で鳴らすタイミングの時だけ声を掛けた。繰り返すことにより、鳴らすタイミングが分かり、ほとんど間違えることがなくなった。(④・③・③)</p>

<p>G:SM 検査 : Sq48/SA5          歳0ヶ月)          知的障害、ダウン症、          遠視、弱視、右手親指          第一関節が曲がらない          音楽が好きでピアノを          習っている。体を揺ら          しながら大きな声で歌          うことができる。          楽器の演奏では、教師          の指示された回数を鳴          らすことができる。          足を組んだり、前かが          みになったり、姿勢が          悪い時がある。</p>	<p>・楽譜や指揮・歌詞カードを見る          ことができる。(聴く④・見る          ④・感じる④)</p> <p>・演奏や歌唱の際、足を組むな          ど、姿勢がくずれることがあ          る。          (触れる④・動く④・考える③)</p>	<p>①主指導が見やすい位置に座らせ          る。          ②自分のトーンチャイムと楽譜の          色から、自分の演奏する場面を確          認させる。</p> <p>①見本を見せる教師を近くに配置          する。          ③はじめに教師が姿勢を示す。その          姿勢で演奏するように声をかけ          る。</p>	<p>○主指導者の指揮をより意識し          ようとする様子が見られるよ          うになった。また、概ね自分の          演奏する場面でトーンチャイ          ムを鳴らすことができた。(⑤・          ④・⑤)</p> <p>○事前に声をかけると、姿勢を正          そうとすることもあったが、数          分経つと、すぐに姿勢が崩れる          ことも多かった。音楽以外の場          面でも姿勢を意識させ、今後も          継続して取り組んでいく必要          がある。          (⑤・⑤・④)</p>
<p>H:知的障害、脳性麻痺、          右腕分婉麻痺で、右手          右腕は胸位まで上げら          れるが、ものをつかむ          ことはできない。          ジャンベヤカスターネツ          トなどの打楽器を左手          で叩くことができる。          教師の合図を見て楽器          を鳴らすことができ          るが、音を止めること          に関してはまだ意識が向          いていない。また、演          奏中に姿勢が崩れてし          まうことがある。さら          に、自信がなかったり、</p>	<p>・手首をまっすぐにして大きく          振ると美しい音が出ることに          は、まだ意識が向いていない。          (動く②・感じる②)</p> <p>・楽器を持って鳴らすことはで          きるが、その際の姿勢や楽器          の持ち方は課題である。(触れ          る③)</p> <p>・音を鳴らそうとすることはで          きるが、音を止めることには          まだ意識が向いていない。(聴          く②・見る②・考える②)</p>	<p>③正しい持ち方で演奏できている          ときは、その場で「いい音で鳴ら          せたね」などと声をかけ、良い音          で演奏できた時の感覚をつかめ          るようになる。</p> <p>③初めは、良い姿勢と正しい持ち方          を教師と一緒に確認する。慣れて          きたら、教師の声かけを減らして          いく。良い姿勢や持ち方が出来て          いるときには賞賛し、自信を持て          るようにする。</p> <p>①演奏中に、動きの見本を見せる教          師を近くに配置する。          ①演奏前に、音を止める動作を教師          と一緒に確認する。</p>	<p>○教師の声かけで、正しく楽器を          握り、腕を大きく振って、楽器          を鳴らすことができるよ          くなった。(③・③)</p> <p>○教師の見本を見ることで、自身          の姿勢や楽器の持ち方をより          良くしようと意識し、演奏に参          加することができるよ          くなった。(④)</p> <p>○繰り返し取り組むことで、曲中          でも、トーンチャイムを体に          当てて、音を止めることがで          きるようになった。(④・③・          ③)</p>





### 5. 結果と考察

①生徒の変容については、どの生徒も良い変化があったとは言えないが、少なくとも落ち込みはなかった。それぞれの生徒に対して、その生徒の問題点を捉え、併せてよさを伸ばすことを、教師が考えて手立てを取ることは、生徒にとって非常に効果的だったと言える。どの生徒にも合う便利な指導法はなく、一人ひとりの課題に寄りそった指導が特別支援の生徒には必要だとわかった。②教材の工夫については教員全員で智慧を出し、工夫する事や、そのアイデアを盛り込んだ教材づくりを一緒にする中で教員間の連携が深まることもわかった。③音楽の授業について感性の違いで理解し合えなかった教員たちの実態を踏まえ、変容をグラフで表すことはこれまでの音楽の指導において画期的であるが、グラフや数値が物語る生徒の成長は、薄い層で僅かな表出も見逃さない教師の読み取りに左右されるとわかった。

### 6. まとめ

特別支援の必要な生徒にどんな活動がよいのか、どんな読み取りが必要なのか、教師間の連携の必要性は不可欠である。生徒は本来成長する可能性を持ち、教師はそこを信頼し、生徒の「手ごたえ」として機能させると、自らの動きとなる。さらに、周りに認められることで自信に繋がり、生徒はもっとやりたい気持ちを持つと思える。教師や仲間存在も助けになる。音楽では楽しい気持ちが支えになりエネルギーを生み出し生徒の育ちになる。これからも特別支援の必要な生徒の授業づくりを考えたい。

### 参考文献

中島恵子・山下恵子 (2002) 「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」,春秋社,p.55-59. p.217-228



## 資料①【Co-Musictherapy における多感覚領域の視点とそのレベル】(中島, 2002)

	Co-Musictherapy に映る姿
聴く	<ul style="list-style-type: none"> <li>①音を聴かない、音に気づかない</li> <li>②音に気づき意識できる</li> <li>③近づいたりして音の意味を知ろうとする</li> <li>④音の意味を知ろうとして持続して工夫する</li> <li>⑤意味が分かる音や音楽を積極的に聴く</li> <li>⑥音や音楽を積極的に聴き、自分でその音や音楽から自由にイメージを広げていくことができる</li> </ul>
見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>①楽器などを目的的に見ない</li> <li>②楽器の音や音を出す人に気づいて見る</li> <li>③対象を見て意味がわかるために目的的に見る</li> <li>④自分の意思や目的を持って様々なものを見る</li> <li>⑤対象を目的的に見て、自分でその物から自由にイメージを広げていくことができる</li> </ul>
触れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①楽器に触れない、触れようとしない</li> <li>②触覚感覚刺激として楽器を提供すれば触れる</li> <li>③触覚感覚刺激として、みずから持続して触れる</li> <li>④意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別することができる</li> <li>⑤意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別しながら把握などの操作に至る</li> <li>⑥意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別し乍ら物の操作や遊びを展開、触覚からイメージを広げたりできる</li> </ul>
動く	<ul style="list-style-type: none"> <li>①動かない、動けない</li> <li>②自分勝手に動き、自分の動きを意識できない</li> <li>③一定の目的や一定の動きであれば意識して動ける</li> <li>④自分の動きが意識でき、音などで自分の動きをコントロールする</li> <li>⑤動きのヴァリエーションが広がり、見たり聴いたり物と関わったりしながら動くことができる</li> <li>⑥動きながらのヴァリエーションが広がり、他者とのやりとりを柔軟にできる</li> </ul>
感じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①楽器を触ったり、音を聴いたりすることで快・不快等を感じない。表情や動きの反応がない</li> <li>②表情や動きで感じていることが他者に伝わる</li> <li>③呼吸や音の変化、リズム・テンポの変化を感じることができる</li> <li>④手遊び歌など、一定の遊びにおいて、その前後に遊びの楽しさなどを予期したり余韻を感じたりできる</li> <li>⑤音や音楽や音を出す動きや他者の存在などを、驚いたり、楽しいと感じたりする</li> <li>⑥音や音楽に様々な遊びや素材を感じ、それを創造的な表現にすることができる</li> </ul>
考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>①考えずに、多くは欲求に従って行動している</li> <li>②好きな楽器の操作など、決まった場面では自分なりに考えて行動できる</li> <li>③音や音楽の意味を考え、楽しむことができる</li> <li>④いろいろな遊びの場面などで音や音楽を意図的に使用したり構成・創造し、楽しむことができる</li> <li>⑤いろいろな音楽経験や遊びを意識化しながら遊びを展開していくことができる</li> <li>⑥いろいろな音楽経験や遊びを意識化し、創造的に展開させながら自己実現に向かうことができる</li> </ul>

資料②「音楽『ハッピーバースデー』」で見る視点・めあて・到達目標【具体的な姿】

1 聴く

重度	映る姿	軽度
教師と一緒に座る	①音を聴かない	
友だちが演奏している雰囲気を感じ取る		
振ると鳴ることに気づく	②音に気づき意識できる	
友だちが鳴らしている音に気がつく		
音の鳴る方を見る	③近づいたりして音の意味を知ろうとする	
友だちや教師と一緒に鳴らすことがわかる		
トーンチャイムの音の響きを感じたり、聴き入る姿が見られる		
	④音の意味を知ろうとして持続して工夫する	合図を見て鳴らそうとする
		メロディを聴いて合わせようと振る
		隣にいる友だちの鳴らした音に合わせてトーンチャイムを振る
	⑤意味が分かる音や音楽を積極的に聴く	合図を待って鳴らそうとする
		メロディを意識して、その前の音が鳴っているときにあらかじめ楽器を振り上げることができる
		周りの友だちの振り上げたタイミングに合わせてしようとする
	⑥音や音楽を積極的に聴き、自分でその音や音楽から自由にイメージを広げていくことができる	合図を見ないでもタイミングよく鳴らすことができる
		メロディの進行を意識して自分の音が合う個所で鳴らす
		自分の鳴らした音が周りの音と調和していることを感じることができる
		他のグループの音を聴くことができる
		演奏の全体を把握できて鳴らせる

2 見る

重度	映る姿	軽度
トーンチャイムを見ない	①楽器などを目的に見ない	
トーンチャイムを見るだけで、鳴らそうとしない		
トーンチャイムを振って音が鳴ることがわかる	②楽器の音や音を出す人に気づいて見る	
教師や友達の鳴らす音に気づいて見る		
鳴っているトーンチャイムの方を見る		
	③対象を見て意味が分かるために目的的に見る	トーンチャイムの上下がわかって持てる
		トーンチャイムの揺れるバーを見る
		トーンチャイムを鳴らそうと振ることができる
	④自分の意志や目的を持って様々な	コップの楽譜を見て、自分の振るトーンチャイムの色とコップが同じだと気づける

	ものを見る	同じ色のコップが、自分の鳴らす場所だとわかる
	⑤対象を目的的に見て自分でそのものから自由にイメージを広げていくことができる	自分の色と同じコップの数だけ鳴らすことがわかる
		自分のグループ以外のグループが鳴らす場所もわかる
		コップ楽譜を見たり、教師の合図を見て鳴らそうとし、演奏全体をつかむことができる

3. 触れる

重度	映る姿	軽度
トーンチャイムを触らない	①楽器に触れない、触れようとしない	
トーンチャイムに関心を示さない		
教師が鳴らしてみると触る	②触覚感覚刺激として楽器を提供すれば触れる	
友だちが鳴らしているのを聴いて自分も触ろうとする		
何度も振ってみる	③触覚感覚刺激として、みずから持続して触れる	
振って鳴らそうとする		
	④意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別することができる	音の振動に気づき「鳴っている」ことを伝えようとする
		トーンチャイムならではの触感を「固い」「冷たい」「透明な」などと言葉にする
	⑤意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別しながら把握などの操作に至る	みんなで鳴らすと音が透明な感触を持つ響きの和音になることが分かって、自分も一緒に鳴らそうとする
		和音の響きを意識して振ろうとする
	⑥意識的に楽器などに触れ、その感覚を弁別し乍ら物の操作や遊びを展開、触覚からイメージを広げたりできる	手首をまっすぐにして大きく振ると美しい音が出ることに意識を向けられる
		振り方で音の違いがあることに気づいて鳴らそうとする
		全体の響きに気づき自分の音をより一層響かせようとしたり、音を溶け込ませよう、合わせようとする

4. 動く

重度	映る姿	軽度
トーンチャイムを持って動かない	①動かない、動けない	
トーンチャイムを鳴らせない		
鳴ろうが鳴らまいが自分勝手に振ってしまう	②自分勝手に動き、自分の動きを意識できない	
自分の振る動きを意識できない		
鳴らそうと持つ	③一定の目的や一定の動きであれば意識して動ける	
鳴らそうと振る		

鳴るまで振る	④自分の動きが意識でき、音などで自分の動きをコントロールする	振れば鳴ることが分かって振る
	⑤動きのヴァリエーションが広がり、見たり聴いたり物と関わったりしながら動くことができる	姿勢を正しく保ち鳴らそうとする 手首をしっかり固定させ、腕ごと振って鳴らそうとする より音が出るように立ち上がって鳴らす
	⑥動きながらのヴァリエーションが広がり、他者とのやりとりを柔軟にできる	他のグループと交代で鳴らしていることが意識できる 会話のように鳴らし、全体の音の広がりを感じ受け止める 指揮者の動きを感じ取り自分でも真似て振ろうとする

5. 感じる

重度	映る姿	軽度
楽器に気づかない	①楽器を触ったり、音を聴いたりすることで快・不快等を感じない 表情や動きの反応がない	
音に関心を払わない		
表情が変わらない		
笑顔や思わず動くことがない		
音が鳴った時に表情に変化が見られる	②表情や動きで感じていることが他者に伝わる	
音が鳴った時に目に動きが現れる		
「せいの」などの声掛けに反応する	③呼吸や音の変化、リズム・テンポの変化を感じることができる	
呼吸を合わせて振ろうとする		
	④手遊び歌など、一定の遊びにおいて、その前後に遊びの楽しさなどを予期したり余韻を感じたりできる	知っている歌に音を付けていく楽しさを感じる みんなでタイミングを合わせて振る面白さを感じ、次を期待できる 音の余韻を感じている
	⑤音や音楽や音を出す動きや他者の存在などを、驚いたり、楽しいと感じたりする	他のグループの音も聴いて、次は自分たちができるのではと様子を見る 音が響く空間を感じることができる お互いに聴きあえる
	⑥音や音楽に様々な遊びや素材を感じ、それを創造的な表現にすることができる	みんなで合わせることで響きが作られていることを感じる ことができる もっといい音を鳴らしたいと工夫しようとする 一緒に演奏することで、音が合わさって、思わず聴きほれるような瞬間を感じることができる

6. 考える

重度	映る姿	軽度
あまり考えていない 欲求のままに過ごしている	①考えずに、多くは欲求に従って行動している	
自分なりに振って鳴らそうとする	②好きな楽器の操作など、決まった場面では自分なりに考えて行動できる	トーンチャイムを鳴らすことができる
	③音や音楽の意味を考え、楽しむことができる	合奏することが意識できる 音を聴くことに意識が向く
	④いろいろな遊びの場面などで音や音楽を意図的に使用したり構成・創造し、楽しむことができる	音楽の時間以外でメロディなどを口ずさんでいることがある 「ハッピーバースデー」の歌を歌うときにこれまでと違う変化がある
	⑤いろいろな音楽経験や遊びを意識化しながら遊びを展開していくことができる	芦特祭で演奏することが分かって演奏しようとする 生活の中で交替して遊ぶ・相手を意識できることがある
	⑥いろいろな音楽経験や遊びを意識化し、創造的に展開させながら自己実現に向かうことができる	一緒に作り上げる喜びを感じられる 集団の中の自分を意識し、もっとやりたい気持ち膨らんでいる

資料③ 楽譜「ハッピーバースデー」

													↓
ハッピ	ハース	デイ	トゥ	ユ	ー	ハッピ	ハース	デイ	トゥ	ユ	ー	ハッピ	

ハース	デイ	ディア	あし	や	ハッピ	ハース	デイ	トゥ	ユ	ー	